

活況を呈し成長を続けるフィリピンIT産業

— フィリピン投資環境視察ミッション報告 —



2010年2月7日から12日までフィリピン大使館と日本アセアンセンターはIT分野に焦点をあてた投資環境視察ミッションを派遣しました。このミッションには民間企業、プレスを中心に15名が参加しました。ミッションの目的は、投資環境を探ることで、貿易産業省、フィリピン投資委員会、日本貿易振興機構マニラ事務所、フィリピンソフトウェア情報協会など関係機関の協力のもと、会社訪問やミーティング、イベントを通じて様々な角度からフィリピンを視察しました。参加者は、ネットワーキングの場をいくつか持ったことにより、フィリピン地場企業だけでなく、進出済み日本企業との情報交換も行い、ビジネスチャンスを模索することができました。

参加者からは、フィリピンIT産業のポテンシャルの高さに驚きの声が上がっていました。ITの主なアウトソース先としては、インド、中国、ベトナムがあげられますが、フィリピンのビジネス慣習や環境には非常に魅力があり、日本企業にとってチャンスがあふれていると言えるのではないのでしょうか。

例えば、フィリピン最大のIT見本市であるeサービスの開会式においては、BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）の業界団体代表から、経済が低成長にとどまった2009年においても、アニメーション、ゲームやソフトウェアなど非音声分野で前年比35%、コールセンターなど音声関連分野で同2割以上の成長を遂げ、世界シェアが15%に達したとの話がありました。アロヨ大統領からは、IT団地やサイバー回廊の整備、人材育成などに関し、政府として引き続き重点的に取り組んでいく旨、話がありました。また、会場内で開催された日本人投資家を対象とした投資セミナーにおいては、会社設立手続きなどIT分野での投資のしやすさ、充実した優遇措置、エンジニアや管理職人材の人件費の

安さ、英語が通じ明るく教育もしやすい気質、地理的に日本とも近い点などについて、既に投資した企業などから話がありました。

成果としては、参加者の何社かはフィリピンにおけるビジネス展開において次のステップを模索しています。A社は訪問先フィリピン企業との業務提携を視野にエンジニアの常駐を決定し、近い将来現地法人設立を予定しています。B社は新規ビジネス開拓のために、社員複数名による調査出張を終えました。この他にも数年以内に進出するため、調査を進めている企業もあります。

主なプログラム内容は以下の通りでした。

展示会視察

- e サービス

ミニセミナー

- 参加者向け投資セミナー

(投資環境・ビジネス環境・IT事情ならびに企業プレゼン)

企業訪問

- フィリピン地場 IT 企業 2社
- 日系 IT 企業 3社
- フィリピン地場非 IT 企業

教育機関

- フィリピン大学 JICA による IT 教育共同プロジェクト

ネットワーキング

- IT 企業とのネットワーキングセッション
- 現地日系企業とのネットワーキングディナー
- 投資委員会とのネットワーキングランチ
- 現地通信会社とのネットワーキングランチ・ディナー